

Brexit の進捗状況と今後の課題

ウィークリー・トピックス

2016年1月23日
国際部 シニアアナリスト
石野 なつみ

2016年6月に決定した Brexit の現在までの進捗状況と今後の課題について解説する。

1. 英国:メイ首相の Brexit 戦略

メイ首相は、2016年7月の就任時の演説で、“Brexit means Brexit”と宣言したが、その後、自身の考えを公式に説明することなく、12月には国旗の色で表現した、a “red, white, and blue Brexit”と、曖昧なスローガンの繰り返しを行い、国内外からの批判の声を受けていた。

しかし、1月17日に行われた演説で、“No deal is better than bad deal”と、メイ首相は hard Brexit を選択することを宣言した。そのメインポイントは以下の通りである（【図表2】参照）。

【図表1】英国:メイ首相の演説内容



(出所:各種報道等より住友商事グローバルリサーチ作成。
写真はWikimedia Commonsより)

【図表2】1月17日演説のメインポイント

- 英国議会の関与を容認
 - ・ 離脱通告前に英国議会承認を得る意向
- 単一市場からの離脱を宣言
 - ・ 4つの自由移動の拒否(ヒト、モノ、カネ、サービス)
- 優先事項は移民のコントロール
 - ・ 選択的なEU移民の受け入れ
 - ・ EU在住の英国国民、英国在住のEU市民への優先対応
- EUへの“ある程度の支払い”
 - ・ 予算貢献の拒否も、“特定”のプロジェクトへの支払い
 - ・ 欧州経済領域(EEA)からの離脱の可能性を示唆
- 関税同盟へ“アソシエイト・メンバー”として残留を希望
 - ・ 産業別の関税協定を示唆
- 北アイルランド問題の重要性を強調
 - ・ アイルランド共和国とのハード・ボーダーは回避

方向性の公式表明として評価も、見直しはEUとの交渉次第

(出所:各種報道等より住友商事グローバルリサーチ作成)

EU予算に関し、メイ首相は“ある程度の支払い”をする可能性はあるものの、予算への貢献は拒否する旨、宣言している。支払いは、特定のプロジェクトに対して行われるとしているが、その定義は曖昧である。また、予算貢献の拒否、及び移民コントロールは、EEA 欧州経済領域からの離脱も意味し、ノルウェー・モデルの可能性はなくなる。

関税同盟からも離脱する意向だが、何らかの手段でアソシエイトメンバーとしてEUとの非関税貿易を模索しようと考えていることが伺える。これは産業別の関税協定といった、これまでにない関税同盟を意味すると思われるが、WTOのルールの下では認められないため不透明感が残る。

本資料は、信頼できると思われる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一した見解を示すものではありません。本資料のご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び住友商事グループは一切責任を負いません。本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。

最後に、北アイルランドとアイルランド共和国の国境問題は重要課題であると強調した。これは、社会的不安を生まないためにも英国国内では重要な課題となっている。

以上、メイ首相が一応の方向性を公式に表明したとされ、一定の評価はできるが、今後の見通しとしては、メイ首相が離脱の通告をして開始される EU との交渉次第ということになる。また、英国政府の交渉要員不足も懸念として残されている。

2. EU: Brexit 交渉担当人事決定

英国との Brexit 交渉で重要な機関、欧州委員会、欧州理事会、欧州議会の 3 つの機関で、交渉を担当する責任者が決定されたが、これが EU 機関内で交渉権争奪戦を招く懸念がある。

まず、EU 離脱に関する条項であるリスボン条約では、離脱交渉を担当するのは欧州委員会とされている。よって、欧州委員会のバルニエ氏

(【図表 3】写真左側) が首席交渉官として、離脱交渉を担当する。

しかし、欧州理事会、欧州議会ともに交渉に参加する意向を強調しており、それぞれ、セーウス氏(【同】写真中央)、フェルホフスタット氏(【同】写真右側)を交渉担当官として任命している。

幸い、交渉時の混乱を回避するため、現在、役割分担に合意している。欧州委員会は専門的・技術的な立場で専門家を交渉の場に送り、欧州理事会は進捗状況の詳細なレポートを受け、欧州議会はオブザーバーとして交渉に参加することになっている。しかし、どちらの機関が交渉をリードするのか、交渉時の混乱が懸念されている。

3. 今後の課題

最後に今後の課題について解説する。まず、3 月末までとされる離脱通告の時期だが、Brexit 裁判の最高裁判決が現地時間明日、1 月 24 日に予定されている。また、EEA 欧州経済領域のメンバーシップに関する裁判の可能性も残されており、現在のところ、メイ政権、議会ともに通告時期の延期は避けるとみられている。

次に、英国と EU の交渉内容に対する方向性はいまだ逆方向を向いており、これが一番の課題である。メイ首相は” the best possible Brexit deal ” を望むとし、「良いとこどり」の交渉を期待しているが、ユンカー欧州委員会委員長のコメント” very, very, very difficult ” に見られるように、EU は厳しい態度を維持している。

最後に、2017 年はヨーロッパで重要な国政選挙が相次いで行われる。3 月にはオランダ次期首相を決定する総選挙、4~5 月にはフランス大統領選挙、秋にはドイツ首相を決定する連邦議会選挙が予定されている。現在、ヨーロッパでは EU 離脱を訴える反 EU 政党が勢力を拡大しており、EU は危機感を持っている。それら勢力の拡大を防ぐため、また、英国を追って離脱を望む EU 加盟国を阻止する目的で、EU は英国にさらに強固な態度で交渉に臨むと予想される。英国、EU ともに離脱交渉に向けての準備は着々とされているが、今後は、英国、EU 両方の思惑が絡み合い、困難な状況が続くだろう。

以上

【図表 3】 EU: Brexit 交渉担当人事決定



■ リスボン条約(第50条、第218条)

- 欧州委員会 が離脱を希望する加盟国との交渉を担当

■ 現在の交渉の際の役割の合意内容

- 欧州委員会 → 専門的・技術的な立場で交渉を担当
- 欧州理事会 → 進捗状況の詳細なレポートを受け
- 欧州議会 → オブザーバーとして交渉に参加

(出所: 各種報道等より住友商事グローバルリサーチ作成。
ディディエ・セーウス氏写真は European Commission Audiovisual Services,
他2名の写真は Wikimedia Commons より)